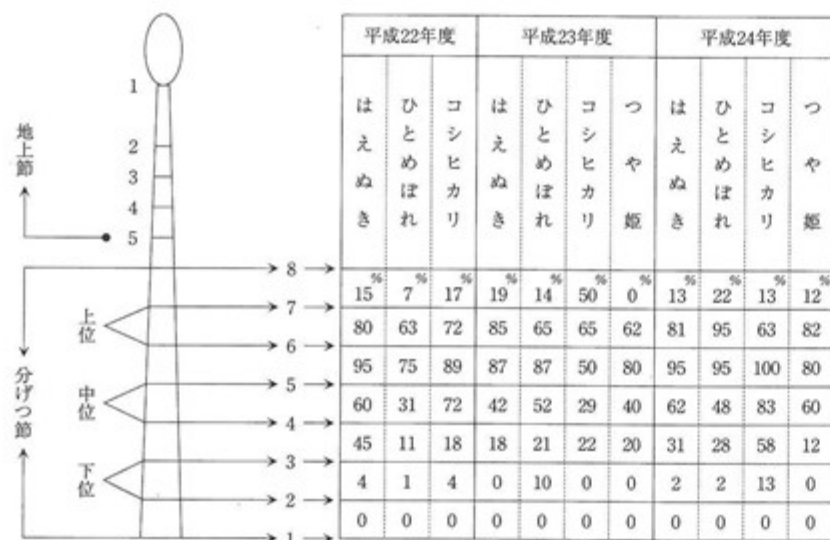


図1 年次別分げつ節位と発生率

(12・13次稲株数担当者生育調査圃各品種ごと
平均値で作図・松浦)



※疎植・密植等の環境(条件)や慣行栽培・特別栽培・完全有機栽培と作り方も様々であるのを平均し、年次毎の傾向として捉えたものである。

知って得するイナ作技術

活力を維持し豊満な稔りに!!

指導部長 松浦 一字



今月のポイント

- 稔りを良くして豊作を。
- 理想的な分げつの出かたで穂揃いも良好。
- 登熟歩合・千粒重を高める最善の努力で
- 完全落水は出穂後30~35日を目安に。

稲数は十分に確保 稔りを良くして豊作を

イネが生理的に最重要期である7月~8月20日現在まで、好天に恵まれ順調な生育を辿っているようである。

特に入梅期もほとんど雨らしい雨もなく多照、高温で経過した事から10葉期頃まではやや遅れがみであった生育も挽回され、出穂期は、全ての品種で2日~3日ほど早まったようである。

稲の収量は、(1)単位面積当たりの穂数、(2)1穂当たりの穂(粒)数、(3)稔実歩合(1穂の穂のうち完全な玄米になれる穂数の割合)、(4)玄米の大小(粒重りの良し悪し)を示す粒重(千粒重)を掛け合わせたものである。

今年のイネづくりも後半に入り、すでに(1)の穂数と(2)の穂数は決定された。天候にも恵まれ、穂数及び穂数(数の要素)は十分に確保されたようである。(表1参照)

残る2つの要素、稔実歩合と千粒重を確実に高めて豊作に結び付けたいものである。

理想的な分げつの出かたで 穂揃いも良好

単位面積当たり穂数を確保するには、穂数型品種と穂重型品種によって理想的な分げつ節位に若干の差異があると思われるが、稲苗移植では特に下位の3節(3号分げつ)~上位6節(6号分げつ)まででキッチリ確保される事が健全多収に繋がり易い。また、過去のデータからも明らかである。

図1は品種ごと分げつの出かたを調べたものである。本田基肥N量が比較的に多く施肥されている「はえぬき」は、下位分げつから順当に出現しているが、特別栽培が多く、また、基肥N施肥量が比較的に少ない「ひとめぼれ」「コシヒカリ」「つや姫」は3節、4節が少なく、特に、分げつ初期に低温であったり条件が

悪いと穂数不足による減収と成る年次が多いようである。
稲苗で健全多収するには3~6節までの分げつで目標穂数を過不足なく確保する事が重要である。
図1及び表1に示す通り、今年には品種を問わず6節までで目標穂数を確保された圃場が大方であり秋が楽しみである。
今後、収穫までに台風や病害虫等の突発的な被害に遭遇しないことを祈るばかりである。

登熟歩合・千粒重を 高める最善の努力で

表1の作況解析にある通り穂数及び相当たり穂数は各品種とも平年を上回っている。

また、表2に示される通り、稲穀の大きさも長さ、幅ともに平年を上回っている。

昨年は入れ物(稲穀)がやや小さ目だった上に9月3日に台風接近に伴うフェーン現象に遭遇、日本海に面した庄内・由利の稲が大

池田 外科 医院

院長 池田 利史

酒田市上安町一丁目80-28

TEL 27-3563

きなダメージを受けた。

特に、出穂の遅い「つや姫」は中米~クズ米の大量発生となり、収量、品質ともに最悪の結果となった。

8月25日現在も残暑が厳しく30℃を越す日は連日続いており、暑さに強い「つや姫」に期待しながらも今後の気象変動(特に台風の襲来)に対応(水を張って保護等)して、後半活力の維持に最善の努力を払いたいものである。

雑草

夏の盛り、刈っても刈っても草が伸びてくる。草刈り機械でキレイに刈れば見たところはいいが、道路の傍やハウスの周りなど草刈り機械では手が届かない。除草剤を使うことが多くなる。その除草剤、多様な機能を持ったいろんなものがある。草の種類を親ながら、スギナにはバスタがいいとか、あれにはラウンドアップがいいとか考えながら使っても、草の生命力にはかなわない。草がよく枯れて地面を被覆してくれても、いつの間にかスギナが出てきたり、ラウンドアップが効きにくい別の草が出てきたり、枯れて倒れてくれればまだしも、半殺しの状態で立っていられるといつまでもみともない。そしてまた草を刈ることになる。

昔は草も家畜のえさとして重要な資源であった。草刈り場を広く持つことは沢山の家畜を飼えるということで、豊かさを補償してくれた時代があった。田圃の畦草を集めて出して、道路で乾燥して牛のえさにしていた。子供でもウサギや鶏を飼い、そのえさを集めた時代がまだほんのすこし前にあった。いつの間にか必要だったものが不要になり邪魔者になってきた。長老を中心に家族が協力しながら飯を食うために働いた時代から、個々の財布を持ち、おのの生活をする個の時代。お年寄りや子供でさえも手がかかるものになり夫婦の関係も稀薄のような時代になってきた。というより人間関係がわずらわしいと思う人が増えてきたようだ。人間、困ると群れてくる。新しい芽がそこから生えてくる。雨が降るたびに生えてくる雑草のように、次々と別の命の種をそこに蒔き付けて芽を出す力強さ。そんな力強い息吹がこの庄内にもたくさんあるのだろう。 -石のしるべ-

表1. 作況解析試験の生育(穂揃期)「暫定値」

区名	年次	出穂期 (月・日)	m穂数 (本)	有効葉 歩合 (%)	止葉数 (枚)	穂数(粒)			
						1次	2次	1穂	m(×100)
標準はえぬき	21年	8.09	500	76.8	12.8	38.3	22.4	60.8	304
	22年	8.03	500	89.9	12.9	41.6	20.3	61.9	310
	23年	8.05	540	81.1	12.9	38.6	23.1	61.7	333
	24年	8.05	563	77.6	12.9	41.0	18.6	59.6	335
	平年	8.07	507	78.4	12.8	39.9	22.6	62.5	317
	平年比	-2	111	-0.8	0.1	103	82	95	106
標準コシヒカリ	21年	8.15	377	68.4	13.1	39.0	26.4	65.4	247
	22年	8.09	376	86.0	13.2	42.1	26.0	68.1	256
	23年	8.12	473	76.8	13.6	45.6	23.3	67.9	321
	24年	8.09	474	71.3	12.8	39.0	25.3	64.3	304
	平年	8.13	411	74.9	13.2	42.8	27.9	70.7	290
	平年比	-4	115	-3.6	-0.4	91	91	91	105
標準つや姫	21年	8.16	439	76.9	12.9	43.3	23.2	66.5	292
	22年	8.10	427	90.3	13.1	47.2	27.3	74.5	318
	23年	8.12	472	73.9	13.0	45.7	21.6	67.4	318
	24年	8.10	501	72.4	12.6	41.9	21.7	63.6	319
	平年	8.13	452	77.9	12.9	44.5	24.1	68.6	310
	平年比	-3	111	-5.4	-0.3	94	90	93	103

※) 平年値: はえぬき、コシヒカリは過去7年の平均値、つや姫は過去5年の平均値

図2. 刈取り適期の穂相



◎ 穂の水分含有が23%前後になった時

しかし、品種や収量レベルで若干違ってくる。ここでは600kg内外の一般的な収量レベルで品種ごとの積算温度と青穂割合で示したのが表3である。あくまでも目安であって、収量が多いほど日数と積算温度が必要となる。図2に示すように枝梗の枯れ具合、穂の水分含有率も合わせた適期刈取りの判断としたものである。

山形県総合研究センター
水田農業試験場

表2. 穂揃期葉色と初穀の大きさ

区名	年次	穂揃期葉色 (SPAD)			初穀の大きさ (mm)		
		n	n-1	n-2	長さ	幅	長さ×幅
標準はえぬき	21年	35.0	37.5	39.7	7.13	3.15	22.46
	22年	34.7	35.2	36.7	7.19	3.42	24.61
	23年	30.3	32.5	37.0	7.06	2.90	20.46
	24年	32.9	34.4	37.2	7.23	3.27	23.66
	平年	32.6	34.5	37.1	7.12	3.17	22.59
	平年比	0.3	-0.1	0.1	102	103	105
標準コシヒカリ	21年	31.3	33.0	31.6	—	—	—
	22年	31.2	31.1	30.8	7.41	3.54	26.27
	23年	27.6	25.6	25.4	6.82	3.14	21.43
	24年	31.9	31.1	32.4	7.24	3.29	23.82
	平年	30.5	29.9	30.4	—	—	—
	平年比	1.4	1.2	2.0	—	—	—
標準つや姫	21年	30.7	32.2	32.7	—	—	—
	22年	32.7	33.2	33.9	7.29	3.30	24.06
	23年	28.5	25.8	28.3	6.82	2.99	20.35
	24年	31.7	30.0	33.1	7.18	3.24	23.24
	平年	30.9	30.3	32.0	—	—	—
	平年比	0.8	-0.3	1.1	—	—	—

調査日: はえぬき8月8日、コシヒカリ・つや姫は8月15日

表3. 主要品種の刈取り適期目安

品 種	出穂後積算 平均気温	刈り始めの 青穂歩合
どまんなか	950~1,050℃	15 %
ひとめぼれ	950~1,100℃	15 %
ササニシキ	950~1,150℃	20 %
はえぬき	950~1,200℃	20 %
コシヒカリ	1000~1,200℃	15 %
つや姫	1000~1,200℃	15 %
あきたこまち	950~1,100℃	20 %

刈取り適期判断は
積算温度と青穂割合で!!

出穂期から登熟するまでの日数と積算温度は、一般に40~45日で950℃内外としている。

透水性等の土壌条件で多少の差もあるが、普通田では出穂後30~35日を目安に、早すぎるものと品質・収量低下につながることを肝に命じ刈取り直前まで落ち度のない管理にしたいものである。

等)と水分の補給が重要である。根の水分吸収力が衰えると、穂への水分の供給が不足する。穂への水分供給不足は、やがて穂の水分含量が低下につながる。穂の水分含量が低下すると、玄米は豊かな稈りをしなないまま収穫期をむかえてしまう。これでは、いくら稲数が多く初穀が大きくても炭水化物を受け入れる袋にはならない。収穫作業を心配する心情も理解できるが、早すぎる完全落水は禁物である。

100%天然有機リン酸肥料

マドラグアノ

MADURA MADURA GUANO TA GUANO

【リン酸成分22%・石灰成分30%
ケイ酸成分8%以上保証】

マドラウイング株式会社

東北営業所
鶴岡市下山添字庄南50-19
TEL (0235) 57-5153 FAX (0235) 57-3103